

グローバル・ガバナンス学会

第二回研究大会

開催ご案内

日時：2013年4月6日（土）10時～

会場：立命館大学 洋洋館

グローバル・ガバナンスと規範

グローバル・ガバナンス学会会長 山本武彦

2012年9月29日に開催されましたグローバル・ガバナンス学会の創立記念シンポジウムは、日中国交回復40周年という記念すべき日と奇しくも同じ日に実施され、ちょうど尖閣諸島国有化（9月11日）が決定された直後ということもあり、大きな関心を引き起こしました。現代国際システムの基本構造である主権国家体系が、いまなお牢固として生き続けていることを肌身を通して感じられたことと思います。尖閣諸島近辺で起こった射撃管制レーダー照射事件も、まだまだ危機の余波が鎮まっていないことを感じさせずにはおきません。

他方で、北朝鮮は衛星打ち上げ用ロケットと称して昨年12月12日に長距離弾道ミサイルを発射し、2か月後の今年の2月12日には第3回目の核実験が実施されるなど、北東アジアは古典的なナショナル・ガバナンスの衝突しあう場にとどまり続けている地域であることを、いやというほど実感させました。国連安保理事会は追加制裁を発動し、また核実験後のさらなる制裁の発動を模索しています。

また2012年から13年の冬は、北京が空前の大気汚染に襲われ、PM2.5という聞き慣れない物質の襲来に見舞われました。中国の急速な経済発展は環境劣化をもたらし、健康を限りなく蝕む「人間の安全保障」の危機を加速させて止みません。3・11東日本大震災と福島第一原発事故後の放射能汚染と重なりあう形で、「人間の安全保障」が二重の危機にさらされていることを強く意識せざるを得ません。

私たちの住む東アジアだけを取ってみても、「主権」の“規範”と「固い安全保障(hard security)」や「柔らかい安全保障(soft security)」の“規範”が折り重なるようにせめぎ合っていることに気づきます。さらに市民社会アクターの成熟が日増しに高まり、時には「主権」「規範」と激しく衝突する場面を目にするようになりました。軍縮・軍備管理といった本来なら「固い安全保障」規範のせめぎ合う世界でも、近年、市民社会アクターが主権国家の固い殻を突き崩す動きが顕著になっています。対人地雷禁止条約やクラスター爆弾禁止条約の成立にNGOが主導的役割を果たしたことは、記憶に新しいところです。

私が国連に出向していた2011年に、武器貿易条約(Arms Trade Treaty: ATT)の締結を加盟各国に働きかけるオックスファムの各国団体の連携行動を見て、いまや市民社会アクターが最も「固い安全保障」分野にまで切り込む時代に入ったことを痛切に感じました。ある意味で、それは「主権」規範“の揺らぎを示しているのかもしれませんが。国際社会に「市民社会」規範が国際関係論で広く市民権を得つつある動きの一つ、と捉えることもできましょう。国際関係におけるシビル・ガバナンスの一態様として描き出すことができるかもしれません。

第2回研究大会では共通論題として「グローバル・ガバナンスと規範」を設定しましたが、多様化するガバナンス概念にどのような規範性が含まれるのか。同時に、関係性の深い隣接する争点分野間の相互ガバナンス概念にはどのような規範性が内包されるのか。問われなければならない新しい疑問が次々と湧き起こっている現在、専門知を駆使しつつも、隣接分野の専門知との擦り合わせがいかに大切かを認識する機会となることを願ってやみません。

第二回研究大会・プログラム

会 場：立命館大学 衣笠キャンパス 洋洋館

共通テーマ：グローバル・ガバナンスと規範

2013年4月6日（土）

10:00-12:00 部会Ⅰ（自由論題）

会場 洋洋館 964号教室

報告者 豊島名穂子（東洋哲学研究所）

「東アジアにおける「人間の安全保障」

細井優子（埼玉大学）

「熟議デモクラシーはリベラル・デモクラシーの集計問題を解決できるのか

—熟議デモクラシー理論の批判的検証—」（仮）

橋本圭多（同志社大学）

「社会的責任の国際標準化過程にみるトランスナショナル・アカウンタビリティの形成」

司会 兼 討論者 山本武彦（早稲田大学）

13:00-15:00 部会Ⅱ・Ⅲ

Ⅱ「グローバル・ガバナンスと環境レジーム」（関西政治社会学会連携セッション）

会場 洋洋館 964号教室

報告者 濱崎宏則（総合地球環境学研究所）

「水資源管理におけるガバナンスの考察—メコン河流域を事例として」

島岡未来子（早稲田大学）

「多国間連携によるマルチステークホルダー・プロセスの現状と課題

—東アジア地域の環境ガバナンスを中心に—」

田浦健朗（特定非営利活動法人気候ネットワーク事務局長）

「気候変動問題に取り組む環境NGOの役割と活動」

討論者 仲上健一（立命館大学）

討論者 荒木義修（武蔵野大学）

司 会 新川達郎（同志社大学）

グローバル・ガバナンス第二回研究大会プログラム

Ⅲ 「歴史のなかのグローバル・ガバナンス」

会場 洋洋館 965 号教室

報告者 山本直（北九州大学）

「EU 多数決制の導入と持続—自制と忍耐の政府間ガバナンス—」

平川幸子（早稲田大学）

「戦後日本外交と「開かれた地域主義」—1955 年を起点に—」

討論者 松井康浩（九州大学）

司 会 菅 英輝（京都外国語大学）

15:15-17:30 共通論題 「グローバル・ガバナンスと規範」 （日本公益学会との

共催）

会場 洋洋館 958 号教室

報告者 宮脇昇（立命館大学）

「グローバル・ガバナンスにおける〈as if game〉」

報告者 近藤敦（立命館大学）

「国際政治におけるウソと規範の競合—〈as if game〉と核搭載艦船の一時寄港問題の視点から—」

報告者 野崎孝弘（大阪経済法科大学）

「規範競合論の言説論的転回—その予備的考察—」

討論者 大矢根聡（同志社大学）

司 会 福田耕治（早稲田大学）

18:00-20:00 懇親会

会場 カルム（立命館大学衣笠キャンパス内）

会費 3000 円

事務局 洋洋館 960 号教室

控室 洋洋館 967 号教室

* 記念大会のプログラムは、本学会のウェブページでも順次更新してご案内いたします。

<http://globalgovernance.jp/>

また、本学会のウェブサイトにて参加申し込みも可能です。

第二回研究大会 会場・交通案内

会場：立命館大学 衣笠キャンパス 洋洋館（朱雀キャンパスではありません）。



キャンパスマップ

会場：洋洋館（㉔の建物です）



2013 年度研究大会 交通案内

JR・近鉄 京都駅 (烏丸中央口)	京都駅前 京都市バス	市バス 50 (京都駅B2のりば) [※] 快速 205 (京都駅B3のりば)	立命館大学前(終点)	
		約35分		
		市バス 205 (京都駅B3のりば)	衣笠校前	徒歩 約10分
		約35分		
	京都駅前 JRバス	JRバス 高雄・京北線 (京都駅JR3番のりば)	立命館大学前	
		約30分		
阪急 西院駅	西大路四條 京都市バス	市バス 205	衣笠校前	徒歩 約10分
		約20分		
		市バス [※] 快速202 [※] 快速205	立命館大学前(終点)	
		約20分		
	西院駅 京福	京福電鉄 嵐山本線・北野線	等持院道	徒歩 約10分
		約20分		
			龍安寺駅	徒歩
		約25分		約6分
			等持院駅	
阪急 大宮駅	四條大宮 京都市バス	市バス 55	立命館大学前(終点)	
		約20分		
京阪 三条駅	三条京阪前 京都市バス	市バス 15	立命館大学前(終点)	
		約30分		
		市バス 59	立命館大学前	
		約30分		
JR・地下鉄 二条駅	二条駅前 京都市バス	市バス 15 55	立命館大学前(終点)	
		約15分		
JR 円町駅	西ノ京円町 京都市バス	市バス 15 [※] 快速202 [※] 快速205	立命館大学前(終点)	
		約10分		
		市バス 204 205	衣笠校前	徒歩 約10分
		約10分		

立命館大学
衣笠キャンパス

※土日・運休

* 新幹線→JR 嵯峨野(山陰)線ホームへは、新幹線中央乗換改札口が近くです。乗換所要時間は約10分です。

* ICOCA の他、Suica、TOICA、SUGOCA、PiTaPa、PASMO、MANACA、Kitaca が使えます。
京都市バス・西日本 JR バスでは、全 IC カード乗車券は使えません。